

職位 助教 教員氏名 戸田容平	オフィスアワー 月曜日2時限目・昼休み	研究室 1号棟3階教員研究室（紀尾井町） F314（東金）
教員の所属学会並びに社会活動・課外活動顧問など 日本数学会		
ゼミ名 情報セキュリティ科学ゼミ		
2年次までに修得していることが望ましい科目 情報セキュリティ、情報メディア論、経営情報基礎論、コンピュータ基礎論・応用論、線形代数学、基礎の数学、プログラミング基礎・応用、アルゴリズム基礎論・応用論、情報ネットワーク論、情報システム論		
研究指導内容とその進め方 I. 初年度（3年次） 最終的には卒業論文を執筆してもらうことになるが、多くの学生にとって論文の執筆は初めての経験であり、論文を読む機会もおそらくなかったと思う。よって、初年度の4月から11月ごろまでは主として論文の基本的な知識について学修する。論文の構成やテーマの設定の仕方、資料の集め方、引用文献・参考文献の取り扱い方、論理的で読みやすい文章の書き方など、論文執筆についての作法を十分に理解した上で、12月中に各自で研究テーマを設定し、ここから各自で設定したテーマに関連する文献を読み始める。研究テーマは自由に設定して構わないが、意味が曖昧で広すぎるテーマや、到底答えを導き出すことができないほど困難なテーマ、すでに答えが分かり切っていて取り上げる意味がないテーマなどは避ける。特にテーマが見つからない場合は、情報セキュリティとその周辺からテーマを設定しても良いだろう。論文の基礎知識について、あるいは各自で設定した研究テーマについて学修した内容は、定期的に授業の中で発表をしてもらう。これは、文献を読んで得た情報を自分なりに整理・表現する力を養うためであり、就職活動をする上でも、これからの長い人生を生きていく上でも、非常に重要な能力となるからである。また、人の発表を聴いたら、その発表に対する意見・質問を必ずしてもらう。人の発表は敬意をもって聴くという習慣を身につけてほしい。 並行して、国家資格である IT パスポート試験や情報セキュリティマネジメント試験に関する指導も行う。受講者の全員が IT パスポート試験あるいは情報セキュリティマネジメント試験に合格することを目指す。多くの学生が就職活動の際に受験することになるであろう採用試験SPI3や玉手箱に関する指導も適宜行う。 内定を得た受講生は、他の受講生への鼓舞激励のために、自身の就職活動の記録（就職活動を開始してから内定を得るまでの詳細な経緯）をゼミナールの授業内で発表してもらう。 以上は授業の進め方の一例であり、要望に応じて、上記とは異なる進め方をしても良いだろう。		
II. 次年度（4年次） 初年度に引き続き、各自で設定したテーマに沿って相当数の文献を積極的に読み、卒業論文を執筆するために必要な材料を蓄えていく。研究状況の進捗についても、初年度に引き続き、定期的に発表・討論をしてもらう。7月の終わりごろまでに論文の大まかな組み立てを決定し、10月の終わりごろまでに8割の完成を目標とする。そして、12月に完成した論文を提出してもらい、翌年1月に卒業論文発表会を行う。		
III. 卒業論文の指導、その他指導について すでに記載した通り、論文の構成やテーマの設定の仕方、資料の集め方、引用文献・参考文献の取り扱い方、論理的で読みやすい文章の書き方など、論文を執筆するための知識を基本から指導する。また、国家資格である IT パスポート試験や情報セキュリティマネジメント試験、多くの学生が就職活動の際に受験することになるであろう採用試験SPI3や玉手箱に関する指導も行う。		
教科書、参考書などについて 論文の基礎的な知識についての学修としては『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方』（新田誠吾著/すばる舎）あるいは『論文・レポートの基本』（石黒圭/日本実業出版社）などが良いだろう。その他の教科書・参考書などについては、学生の要望や選択した研究テーマによって適宜指導する。		
ゼミライフ（合宿、ゼミ会等） 受講生の要望に応じて行う。		
ゼミ生に対する要望・注意等 本ゼミナールは通常の授業とは異なり、教員が一方的に講義を行うものではない。受講者の能動的な学修・研究のもと、研究発表や討論を交えながら進めていくものであり、教員は主にファシリテーター役として機能する。したがって、受講者には能動的な学修姿勢が強く求められる。また、やむを得ない事情がある場合を除いて、欠席は許されない。無断で欠席をした場合には評価のグレードをひとつ下げ、2回した場合には単位を与えない。新しい知識を修得する喜びをもって、真摯な気持ちで授業に臨んでほしい。		